

報告 **第39回定例総会/懇親会&第14回**
「午後のポエジア」豊平館 2025/10/13

10月13日(月) 午後に2025年度の活動を締めくくると定例総会、夜には懇親会と朗読会「午後のポエジア」が催されました。懇親会・午後のポエジアは会員/一般合計35人(うちポーランド人家族16人)が参加する盛会でした。総会議事録は8~10頁をご覧ください。(事務局)



午後のポエジア 2025 *

菅原未栄氏自作「追悼 新川和江さん」、「私を束ねないで」をベースに新川と(菅原氏の旧姓)本川で挟んだとのことでした。



池田光良氏は解説で、シンボルスカは詩集『瞬間 Chwila』中の同名作品で地質学用語を使用し「卓状地」といわれる平野部やカルパチア「造山帯」という隆起部を挙げ、これをポーランドの歴史と絡めていると指摘し、日本語で作品を朗読。次いでシャレック・レナタ氏が同作品をポーランド語で朗読された。



新入会の風野中氏が朗読したのは更科源蔵作品の「国境」。大地は繋がっているのにどうしてここに、手を出させないよう、行ってはいけないような「国境」があるのか、両方から近寄ることを拒絶し、父か母のどちらか一方の血だけを選ばせようとするのか。



ムラサキ紫音氏は、花崎皋平作品『天と地と人と』からのスピリチュアル、超越すべき垂直という方向、呼吸することでの空気振動、風という無主の自由、さらに石牟礼道子の著作『苦海浄土わが水俣病』からの引用で想像力を動員して山や草という自然の大きさ、そうした哲学の言葉を選び出す。



小笠原正明氏は、宮沢賢治作品「永訣の朝」にでてくる“あめゆじゅとてちてけんじゃ”は一般的に“雨雪を取って来てちょうだい”と言う意味で捕らえられているが、正確な現地の方言とは言い難い—というお話をしていただいた。



ポーランドの詩人マリア・パヴリコフスカ=ヤスノジェフスカ(1891-1945)の没後80年、短めの詩作品に佐藤三姉妹が挑戦する。まずはレミアちゃん=10頁写真は作品「バラ」、トゲがその象徴でもあ

る薔薇を優しい声で、ポーランド語と日本語の両方の美の証人としてうたう。エステルちゃん「花となって」であるが、オレーヤージュ・シルヴィア氏に背もたれしつつ、一緒に花が咲くまで少し時間をかけて咲かせた。朗読予定のミアムちゃんは会場を逃げ回っていたので、代わって佐藤圭史氏が「あい」を朗読し完結させる。後日、ホラ去年はさあ〜といわれるかな(笑)。



そしてアントーニ・スウォニムスキ(1895-1976)の生誕130年とのことで作品「あわれ」が紹介された。日本語を村田讓、ポーランド語でジェプカ・ラファウの両氏が、1節ごと交互に読む試みである。日本語ではたった三文字の言葉であるが、国によっての感情で



あるとか異なるものとしての実感がある。その後村田讓は一枚の切符を取り出し(今は交通系カードですが、北海道の田舎路線では使えません)自作の「駅名標」を声にした。



ギターを抱えて数井バルバラ氏が登壇する。チェスワフ・ニューメン「ワルシャワの夢」の弾き語り。ポーランドでは割りとポピュラーな曲とのこと。二曲目のヴィルキ「エリ、ラマ、サバクタニ」はキリストが処刑される際に天に向かって述べた言葉で「わが神よ、なぜわたしをお見捨てになるのですか」との嘆きとされ、一人で叫ぶ者はもういないのだ、と。



ポエジアの最後は、ジェプカ氏によるポーランドクイズで締めくくりです。
 =右=ポーランド家族の皆さん
 (村田讓、運営委員、ブログ「空への軌跡・吟遊記」*より)



第 39 回定例総会議事録

(議長 小笠原正明)

2025 年 10 月 13 日 (月・祝) 札幌市・豊平館において第 39 回定例総会を開催し (出席者 13 人・委任状 44 通 [会員数 88 の 1/3 超 = 30])、以下の議案について審議し、各議案とも過半数の賛成を得て議決されました。

[第 1 号議案]2025 年度(2024.9-2025.8)活動報告について(ラファウ・ジェプカ)

1.《第 38 回定例総会》と懇親会、豊平館 2024.10.12 (土) 1F 下の広間 15:30～総会(出席者 11 人・委任状 42 通[会員数 90 人の 1/3 超=31 人])、2F 広間 17:30～懇親会(参加者 38 人[うち会員 18 人、ポーランド人家族 11 人、一般 9 人])

2.例会等

(1)《第 114 回例会》ポーランド名作映画ビデオ鑑賞 & 交流会『イーダ Ida』札幌エルプラザ 2025.3.19(水) 参加者 34 人(うち会員 9 人)アンケート 12 枚、質問紙 1 枚

(2)《第 115 回例会》ポーランド名作映画ビデオ鑑賞 & 交流会『水の中のナイフ』札幌エルプラザ 2025.5.8(木)参加者 26 人(うち会員 11 人)アンケート 11 枚

(3)《第 116 回例会》講演&上映会「ポーランドと日本：新渡戸稲造とポーランドの偉人たち～ピウスツキ家の人々(ユゼフ&アレクサンドラ夫妻とブロニスワフ)、パデレフスキ、キュリー夫人ほか」講演①「ピウスツキ兄弟：インスピレーションが未来を形作る」ヤドヴィガ・ロドヴィッチ=チェホフスカ(スレヴエク市のユゼフ・ピウスツキ博物館副館長、元駐日ポーランド大使)講演②「19～20 世紀の転換期におけるポーランド人女性の独立運動での活動」マウゴジャータ・バサイ(同館展示普及部長)&映画『ピウスツキ・ブロニスワフ～流刑囚、民族学者、英雄』札幌エルプラザ 2025.6.10(火)参加者 45 人(うち会員 14 人)アンケート 24 枚

3.会誌 POLE no.114(2025.1.5)no.115(2025.4.15)発行

4.運営委員会①2024.9.30②2025.3.24③2025.7.14

5.後援事業等

(1)〈後援〉♫川染雅嗣ピアノリサイタル in アルテピアッツァ美唄 Vol.V～石のそばに佇む、2024.10.5

(2)〈後援〉♫徳田貴子ピアノリサイタル～グラジナ・バツェヴィチの系譜、札幌・ふきのとうホール 2024.10.25 / 恵庭・夢創館 10.27

(3)さっぽろ雪まつり第 49 回国際雪像コンクール(大通 11 丁目 国際広場 2025.2.2-2.7)に参加のポーランド・ヴロツワフ美術大学 ASP Wrocław チームを応援

(4)〈後援〉ヤヌシュ・スコヴロンピアリサイタル、江別・えぼあホール 2025.2.21

(5)〈後援〉シヨパン名曲コンサート part 7～北海道教育大学岩見沢校水田研究室卒業生の有志によるコンサート、ザ・ルーテルホール 2025.2.24

(6)ブロニスワフ・ピウスツキ記念行事(107 回忌)ウポ

ポイ 2025.5.17、観世流能楽師 津村禮次郎氏らによる手向けの演奏と舞(献花、参加:安藤厚、井上紘一、尾形芳秀)

6.会員動向(2025 年度)入会 6 人:引田秋生、坂尻昌平、樋口みな子、住谷秀保、高松菊乃、風野中逝去:佐々木保子

退会 7 人:大塚広介、片倉昭良、小林美保、高岡健次郎、丸山博、水上淳也、吉田邦子(敬称略) 会員数 90 人(うち休会中 2 人)(2025.10.13 現在)

[第 2 号議案]2025 年度収支決算報告および会計監査報告について(園部真幸・稲川和幸・嵩文彦)別紙参照

[第 3 号議案]2026 年度(2025.9-2026.8)活動計画について(ラファウ・ジェプカ)

1.《第 39 回定例総会》&懇親会兼「午後のポエジア」豊平館 2025.10.13(月・祝)総会 1F 下の広間 15:30～、懇親会兼「午後のポエジア」2F 広間 17:30～

2.例会等

(1)午後のポエジア

(2)名作映画ビデオ鑑賞会

(3)講演会等

(4)その他:後援・協力依頼には随時対応

3.会誌 POLE no.116(2025.9.1)no.117(2026.1)no.118(2026.5)

4.運営委員会:3 回程度

5.オンライン広報(HP, Facebook 等)の充実

[第 4 号議案]2026 年度予算(案)について(園部真幸)別紙参照

[第 5 号議案]2026 年度役員等(案)について(安藤厚)(会則第 6 条に基づく役員)

会 長:安藤厚

副会長:塚本智宏

運営委員:安藤むつみ、池田光良、小笠原正明、北浦由花里、熊谷敬子、坂田朋優、霜田英麿、園部真幸、中島洋、アグニェシュカ・ポヒワ、村田譲

事務局長:ラファウ・ジェプカ

監査委員:稲川和幸、嵩文彦

(会則第 15 条に基づく事務局、委員会等)

事務局:(事務局長)ラファウ・ジェプカ、(副事務局長・会計)園部真幸、(催物)安藤むつみ、池田光良、熊谷敬子

編集委員会:安藤厚、池田光良、熊谷敬子、越野誠

広報委員会:安藤厚

(会則第 16 条に基づく東京事務所)

(所長)霜田英麿、(副所長)熊倉ハリーナ

以上

2025年度 収支決算書（自2024年9月1日～至2025年8月31日）

○一般会計

【収入の部】

(単位：円)

	決算	予算	増減	備考
会費	155,000	129,500	25,500	納入率3千×87人×59.3%
寄付金	65,500	50,000	15,500	
雑収入	345	4	341	銀行利子
小計	220,845	179,504	41,341	
前年度繰越金	556,145	556,145	0	
合計	776,990	735,649	41,341	

【支出の部】

(単位：円)

	決算	予算	増減	備考
事業費	122,397	100,000	22,397	38総会67.5千、114回会17.8千、115回例会14千、116回例会1.5千、39総会会場費等21.3千外
連絡費	57,841	100,000	△ 42,159	POLE113-115発送外
編集費	55,762	70,000	△ 14,238	新刊紹介本9.9千、POLE114号19.6千、115号19.6千、チラシ印刷6.5外
会合費	20,143	21,000	△ 857	運営委員会3回開催に係る賄い費、交通費
事務費	35,679	49,000	△ 13,321	HP経費8千、用紙、コピー、プリンターインク外
雑費	11,165	22,000	△ 10,835	献花代
予備費		373,649	△ 373,649	
小計	302,987	735,649	△ 432,662	
次年度繰越金	474,003		474,003	
合計	776,990	735,649	41,341	

○特別会計

【演奏部会基金】

(単位：円)

	収入の部	支出の部	備考
前期繰越金	267,975		
利息	167		
合計	268,142	0	

会計の監査にあたり、関係書類及び通帳を照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたのでここに報告します。

2025年9月21日

監査委員

高文彦

2025年9月21日

監査委員

福岡知幸



=写真左より= 小笠原正明 総会議長、
ジェブカ・ラファウ 事務局長、園部真幸 会計担当

2026年度 収支予算案 (自2025年9月1日～至2026年8月31日)

(単位:円)

【収入の部】	予 算	前年度決算	増 減	24年度決算	備 考
会費	217,000	155,000	62,000	367,500	3千×85人×85%
寄付金	55,000	65,500	△ 10,500	47,000	24-25年度実績平均程度
雑収入	300	345	△ 45	4	貯金利子 (25年度実績程度)
小 計	272,300	220,845	51,455	414,504	
前年度繰越金	474,003	556,145	△ 82,142	445,896	
合 計	746,303	776,990	△ 30,687	860,400	
【支出の部】					
事業費	100,000	122,397	△ 22,397	51,322	39総会4万、例会4回×1.5万
連絡費	105,000	57,841	47,159	96,373	ポーレ発送等(2.5万×3号)、その他郵送3万
編集費	80,000	55,762	24,238	79,337	ポーレ(2万×3号)、チラシ・配布資料等2万
会合費	30,000	20,143	9,857	20,889	運営委員会 (10千×3回)
事務費	35,000	35,679	△ 679	34,833	HP経費、用紙、コピー外
雑費	15,000	11,165	3,835	29,301	花代等
予備費	381,303		381,303	0	
小 計	746,303	302,987	443,316	312,055	
次年度繰越金	0	474,003	△ 474,003	556,145	
合 計	746,303	776,990	△ 30,687	868,200	

○特別会計

【演奏部会基金】前年度繰越金 268,142

豊平館に響くポーランドの詩情～「午後のポエジア」に参加して 樋口 みな子

秋深まる 10月13日、定例総会の後に開かれた朗読と音楽の会「午後のポエジア」。会場は中島公園の豊平館。歴史ある空間にポーランドの詩と旋律が静かに、そして力強く響きました。私は今回が二度目の参加です。昨年のポエジアがとても楽しく、北海道ポーランド文化協会に入会するきっかけとなりました。

ポーランド文化を伝える本、映画、音楽など、多様な分野に関心を持つ会員が集う場は、実はそれほど多くありません。新人紹介でも書きましたが、ポーランドを訪れた際、音楽が日常に溶け込んでいることに驚き、深く感動しました。

これまで多くの市民運動に関わってきましたが、ポーランド文化の紹介と普及を目的とする本協会の存在は、とても意義深いものだと感じています。ポーランドの映画や音楽、文学作品に触れられる機会があることも、私にとって大きな喜びです。

入会後に読んだ会報『ポーレ』第114号で、安藤厚会長がポーランドから「ベネ・メリト」名誉勲章を受章されたことを知りました。会員の皆さんは



すでにご存知だったかもしれませんが、私は入会前のことで、安藤先生ご自身もその榮譽について語ることはありませんでし

た。その謙虚なお姿に触れ、「素敵な会」に入会できたことへの感謝の気持ちが深まりました。

懇親会は熊谷敬子さんの司会で、音楽鑑賞から始まりました。声楽の高橋加奈子さんによるメゾソプラノ、ピアノは坂田朋優さん。石川啄木作詞の「初恋」からショパンの「願い」まで5曲の演奏に、久しぶりの音楽会で心が洗われるような思いがしました。



プログラムを通して、2025年が詩人マリア・パヴリコフスカ=ヤスノジェフスカ没後80年、アントーニ・スウォニムスキ生誕130年の記念年とされていることを初めて知りました。佐藤レミリアさん、エステラさん、ミリアムさんによる朗読は、いずれも印象深く、特にレミリアさんが朗読した「バラ」と頭のバラの冠がとても愛らしく、心に残りました。



(ひぐち・みなこ、会員、『銀河通信』編集・発行人)